

(四)着付と季節—公式の着付は季節に隨うて一定し、九月九日から翌年二月晦日まで、必ず綿入を着ねばならなかつた。四月朔日から五月四日までが袷で、五月五日から八月晦日までが帷子であつた。帷子の地質は麻布で、黒色以外の色染とし、紋所を白く抜いた。土用中に入れれば縮を用ひることを得た。又生地

の麻布に藍紋・黒紋を描くこともあつたが、儀式用にはならなかつた。九月朔日以後八日まで再び袷で、九日から綿入にかへつた。故に單衣は炭斗目にあるが、その他は平常服に用ひられる計りであつた。足袋は綿入着用の期間のみ用ひ、白足袋に限られたが、安政以降紺足袋を混用してもいゝことになつた。

レキセイシゴウチヨウ 歴世詮號帳 一册。一名御法名帳。藩侯及び連枝の諡號・忌日を悉く載せたものである。

レキダイソウシヨ 歴代叢書 前田綱紀の手輯。侯が本朝の諸書を廣く求めた際、傍ら漢土の典籍を蒐集して編纂せんことを企圖したもので、その第一輯には六十餘冊二百七十餘種を收め、正徳五年に成つた。その後は政務多端の爲業を廢したが、しかし千字文の順序に従うて毎輯に名づけた數百輯に及ぶ目錄が遺されてゐる。

レキホンシヨウ 曆本抄 二册。享保十五年有澤致貞著。曆の大意、改曆の次第、十干十二支、一年の日數、月の大小閏、日蝕月蝕、季節、その他陰陽家の俗事に至るまで、曆に關する一切を記してある。序文は田中式如。

レツコクザツキ 列國雜記 淺加久敬著。諸國列藩のことに關する筆録である。

レンエ 蓮惡 蓮覺周惠の長子。母は趙勝

寺玄慶の女。童名幸壽、公名二位。父の後を受けて能美郡本蓮寺に住し、文明十七年三月廿三日寂、三十六歳。

レンガ 連歌 藩政初期に於いて和歌の甚だ不振であつたに拘らず、連歌は夙に隆盛であつた。白山比咩神社の堂宇の慶長五年前田利家によつて修理せられた後、藩士北村三郎右衛門入道宗甫は鷹栖久左衛門明宗等と謀り、同十年から連歌を催して之を奉つたが、その慶和萬句に及び、之に名を列するもの五百二人であつた。その詠草は今尚この神社に藏せられて、加賀藩最古の連歌である。又元和八年前田利常以下の詠じた連歌一卷がある。この連歌を興行した六月十七日は、徳川秀忠の女和子が、深曾木の祝を擧げた翌日であるから、亦それを祝するの意に出たのかも知れない。その署名に御上とあるは秀忠、利常は利常の前名であるが、龜鶴は利常の長女で十歳、犬千代は光高で八歳、千勝は後の富山藩祖で六歳、宮松は後の大聖寺藩祖で五歳であるから、何れも代作と見られる。寛永二十年光高は、その夫人の將に分婉せんとするを以て江戸に向かうて出發したが、途上輿中に假睡して佳句を得、幾くもなく長子綱紀の誕生を見た。光高に喜び、廿一年(正保元)三月十七日賀筵を張つて百韻の連歌を興行した。光高は連歌を里村昌程・同昌佐に學んだのである。上の好む所既に此くの如くであつたから、利家の臣赤座吉宗を初として、利常の臣今枝重直・澤橋兵太夫、綱紀の臣淺井政右・青地等定・赤座孝治・竹田忠張等相競うてこの道に没頭した。殊に脇田直賢は、文祿の役本邦に伴はれた半島人で、利長から綱紀に

歴仕したのであるが、我が文化に浴し、連歌をすらすらに弄ぶに至つたことは頗る奇とすべきである。直賢の門に學んだものに板津檢校があつて、寛文八年九月綱紀の武運長久を白山比咩神社に祈請した獨吟百韻は、今も尚存して居る。是より先、慶長十六年利常越中新川郡の淨禪寺を金澤に移すや、寺僧其阿南水に命じて月次連歌を奉納せしめ、連歌料十二石を寄進した。明暦三年利常又天滿宮を小松郊外梯村に營み、京都北野の社僧能觀・能順・能悅を招いて、遷宮の連歌百韻を次がしめ、尋いで能順を別當に任じたが、同年八月廿五日から本社に月次連歌が初つた。前記の能順・淺井政右の外、惠乘坊快全を以て、當時に於ける連歌の三達人といはれる。快全は一名を石良といひ、元祿十五年菅公の八百年遠忌に當つた際、玉泉寺に參籠し、七晝夜を期して獨吟千句を聯ねたといふ。かくて連歌は一時隆盛であつたが、後詩賦と俳諧の流行とに壓せられて、漸く衰滅するに至つた。

レンカク 蓮覺 鸞藝頓圓の二男。童名幸壽、諱は周惠、又周慧に作る。父に次いで能美郡本蓮寺に住し、後籠居して蓮實坊と稱した。明應八年三月十三日寂、七十五歳。

レンカクジ 蓮覺寺 金澤高道町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は本覺山。寺記に、開基勸持院日長元和二年小庵を結び、弟子善行院日安に之を讓つた。境内に七面堂があり、古筆の七面大明神の繪像を安置したが、蓮覺日就といふもの之を信仰し、遂に日安と謀り、寛永九年京都の本寺妙顯寺に請うて寺號を得た。寺號は即ちこの施主の名によつたものである。

レンキョウ 蓮慶 諱は兼立。蓮綱兼祐の子で、童名光千世、公名侍従または宰相。能美郡松岡寺二代を襲ぎ、享祿四年錯亂の際、十一月十八日自害した。享年四十九。

レンキョウジ 蓮敬寺 羽咋郡地保に在つて、眞宗東派に屬する。

レンギョクシユウ 聯玉集 二册。一名能順發句集。能美郡梯天神別當松雲庵能順の連歌の發句集である。初は梅の雪と題號し、慶阿法師の上梓するに及び觀明軒發句集といふたが、後萬里小路卿から靈元上皇の乙夜の覽に供した所、聯玉集の名を賜はつたといふ。

レンゲ 蓮花 石川郡富樫庄に屬する部落。

レンゲジ 蓮華寺 金澤裏金屋町に在つて、

歴仕したのであるが、我が文化に浴し、連歌をすらすらに弄ぶに至つたことは頗る奇とすべきである。直賢の門に學んだものに板津檢校があつて、寛文八年九月綱紀の武運長久を白山比咩神社に祈請した獨吟百韻は、今も尚存して居る。是より先、慶長十六年利常越中新川郡の淨禪寺を金澤に移すや、寺僧其阿南水に命じて月次連歌を奉納せしめ、連歌料十二石を寄進した。明暦三年利常又天滿宮を小松郊外梯村に營み、京都北野の社僧能觀・能順・能悅を招いて、遷宮の連歌百韻を次がしめ、尋いで能順を別當に任じたが、同年八月廿五日から本社に月次連歌が初つた。前記の能順・淺井政右の外、惠乘坊快全を以て、當時に於ける連歌の三達人といはれる。快全は一名を石良といひ、元祿十五年菅公の八百年遠忌に當つた際、玉泉寺に參籠し、七晝夜を期して獨吟千句を聯ねたといふ。かくて連歌は一時隆盛であつたが、後詩賦と俳諧の流行とに壓せられて、漸く衰滅するに至つた。

レンカク 蓮覺 鸞藝頓圓の二男。童名幸壽、諱は周惠、又周慧に作る。父に次いで能美郡本蓮寺に住し、後籠居して蓮實坊と稱した。明應八年三月十三日寂、七十五歳。

レンカクジ 蓮覺寺 金澤高道町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は本覺山。寺記に、開基勸持院日長元和二年小庵を結び、弟子善行院日安に之を讓つた。境内に七面堂があり、古筆の七面大明神の繪像を安置したが、蓮覺日就といふもの之を信仰し、遂に日安と謀り、寛永九年京都の本寺妙顯寺に請うて寺號を得た。寺號は即ちこの施主の名によつたものである。

レンキョウ 蓮慶 諱は兼立。蓮綱兼祐の子で、童名光千世、公名侍従または宰相。能美郡松岡寺二代を襲ぎ、享祿四年錯亂の際、十一月十八日自害した。享年四十九。

レンキョウジ 蓮敬寺 羽咋郡地保に在つて、眞宗東派に屬する。

レンギョクシユウ 聯玉集 二册。一名能順發句集。能美郡梯天神別當松雲庵能順の連歌の發句集である。初は梅の雪と題號し、慶阿法師の上梓するに及び觀明軒發句集といふたが、後萬里小路卿から靈元上皇の乙夜の覽に供した所、聯玉集の名を賜はつたといふ。

レンゲ 蓮花 石川郡富樫庄に屬する部落。

レンゲジ 蓮華寺 金澤裏金屋町に在つて、

歴仕したのであるが、我が文化に浴し、連歌をすらすらに弄ぶに至つたことは頗る奇とすべきである。直賢の門に學んだものに板津檢校があつて、寛文八年九月綱紀の武運長久を白山比咩神社に祈請した獨吟百韻は、今も尚存して居る。是より先、慶長十六年利常越中新川郡の淨禪寺を金澤に移すや、寺僧其阿南水に命じて月次連歌を奉納せしめ、連歌料十二石を寄進した。明暦三年利常又天滿宮を小松郊外梯村に營み、京都北野の社僧能觀・能順・能悅を招いて、遷宮の連歌百韻を次がしめ、尋いで能順を別當に任じたが、同年八月廿五日から本社に月次連歌が初つた。前記の能順・淺井政右の外、惠乘坊快全を以て、當時に於ける連歌の三達人といはれる。快全は一名を石良といひ、元祿十五年菅公の八百年遠忌に當つた際、玉泉寺に參籠し、七晝夜を期して獨吟千句を聯ねたといふ。かくて連歌は一時隆盛であつたが、後詩賦と俳諧の流行とに壓せられて、漸く衰滅するに至つた。

レンカク 蓮覺 鸞藝頓圓の二男。童名幸壽、諱は周惠、又周慧に作る。父に次いで能美郡本蓮寺に住し、後籠居して蓮實坊と稱した。明應八年三月十三日寂、七十五歳。

レンカクジ 蓮覺寺 金澤高道町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は本覺山。寺記に、開基勸持院日長元和二年小庵を結び、弟子善行院日安に之を讓つた。境内に七面堂があり、古筆の七面大明神の繪像を安置したが、蓮覺日就といふもの之を信仰し、遂に日安と謀り、寛永九年京都の本寺妙顯寺に請うて寺號を得た。寺號は即ちこの施主の名によつたものである。

レンキョウ 蓮慶 諱は兼立。蓮綱兼祐の子で、童名光千世、公名侍従または宰相。能美郡松岡寺二代を襲ぎ、享祿四年錯亂の際、十一月十八日自害した。享年四十九。

レンキョウジ 蓮敬寺 羽咋郡地保に在つて、眞宗東派に屬する。

レンギョクシユウ 聯玉集 二册。一名能順發句集。能美郡梯天神別當松雲庵能順の連歌の發句集である。初は梅の雪と題號し、慶阿法師の上梓するに及び觀明軒發句集といふたが、後萬里小路卿から靈元上皇の乙夜の覽に供した所、聯玉集の名を賜はつたといふ。

レンゲ 蓮花 石川郡富樫庄に屬する部落。

レンゲジ 蓮華寺 金澤裏金屋町に在つて、